

9-6

食べて生き活き！

胃ろうの方の経口摂取の取り組み

経口摂取への取り組み

生活意欲の向上

特別養護老人ホームさつき荘

介護職 角田 大輔

東京都世田谷区等々力5-19-10

看護主任 薄井幸子 介護副主任 戸田公明

介護職 國分かほり 管理栄養士 高桑さなえ

TEL 03-3703-0581

E-mail satsuki@rougo-happy.or.jp

FAX 03-3703-0583

URL <http://rougo-happy.or.jp>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人老後を幸せにする会が運営する特別養護老人ホームさつき荘は、昨年創立30周年を迎えました。定員は50名です。個別サービスに特に力を入れていて、東京ドームヘナイターを観に行ったり、温泉に行ったりする方が多いです。

〈取り組んだ課題〉

- ◎さつき荘は、50名の入居者中、11名の方が胃ろうを造設されています。（平成19年7月現在）
- ◎入院によるADLの急激な低下。本人・家族絶望の状態から特養（生活の場）へ。
- ◎生きる意欲 → 食への欲求を取り戻す。
- ◎医師を含む他職種協働。
- ◎食えることでの生活の変化。
- ◎家族の協力

〈具体的な取り組み〉

- ◎口から食べることの大切さを考えた。
- ◎本人の食への欲求を取り戻すために、退院後の生活見直し。
- ◎食欲 = 生への欲。外出・趣味活動。
- ◎本人と家族のニーズを引き出す（信頼関係の構築）
- ◎医師による検査・医務・栄養士との連携。
- ◎口腔ケア・姿勢保持・発語訓練。
- ◎介助から自力摂取へ。
- ◎夢にまで見た自宅へ。
- ◎家族の愛情と協力
- ◎胃ろうだから食べられなくて当然と諦めず、思いやりを持って職員と家族と利用者が一緒に課題に取り組んだ。

〈活動の成果と評価〉

- ◎無気力だった入居者が、どんどんわがままに。
- ◎一時は危険な状態から、体調が安定される。
- ◎体力が向上。趣味活動やレクリエーションへの参加により、生活の幅が広がった。
- ◎食事形態や経口摂取の回数が増える。
- ◎自宅への一時帰宅が実現。
- ◎家族の感動の涙「夢のようです」
- ◎実践報告会での発表と沢山の涙。

〈今後の課題〉

- ◎ソフト食導入などによる食形態のアップ。
- ◎身体機能の向上。
- ◎本人の要望に応え、外出を企画。
夢を叶えることによって、日常生活の中に自発性や意欲を引き出す。